

三川小がより

旭市立三川小学校 児童数207名
No.13 平成30年2月26日(月)

☆ 学校教育目標 「自ら学び、心豊かでたくましく、ともに助け合う児童の育成」

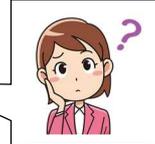
☆ 子どもたちとめざすスローガン! 「よく学び、よく遊べ!そして、助け合う 三川っ子!」

発行責任者 校長 櫻井良敬

平成30年度以降の三川小の教育課程を考える No.3

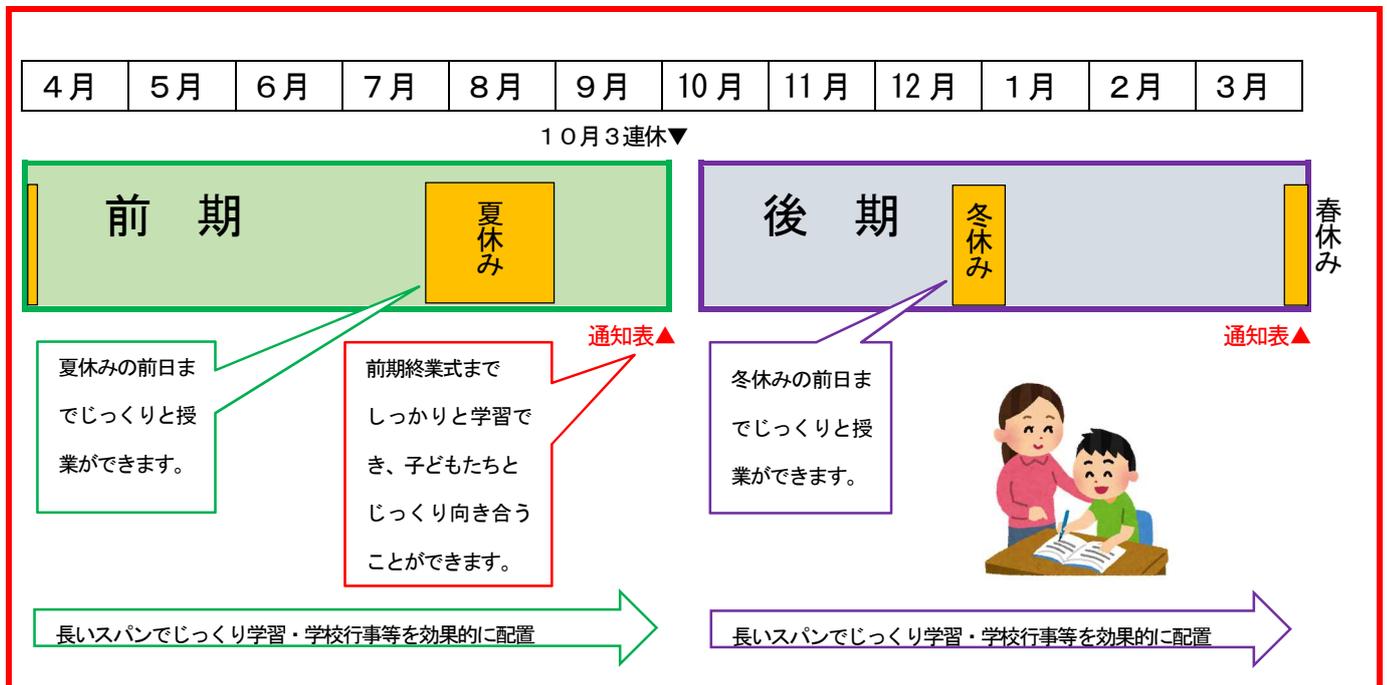
2学期制に変わることは、子どもたちにとってどうなのか。メリットやデメリットについて説明をしていきます。

Q4 『2学期制に変わるよい点は何ですか?』



前号でお伝えしたように、

- ① 授業時間の確保だけでなく授業時間の増加ができます。
- ② 通知表が2回となりますが、あわただしい時期である7月・12月の学期末がなくなり、長期休業日直前までじっくりと授業が行えます。そのため、学習活動の時間の確保ができ、ゆとりをもって子どもたちとじっくり取り組む授業を行うことができます。
- ③ 担任が長期休業前に行っていた成績関係の事務作業を長期休業日中に行えるため、学習の定着の時間や子どもたちと向き合う時間が確保できます。



他には次のようなメリットがあります。

- ④ 通知表が年2回になることで、長いスパンで児童の変化を、じっくり、きめ細かく見ることができます。また、学校行事等を効果的に配置することができます。

Q5 『2学期制に変わると、よくないことはないのでしょうか?』



①学期について

前号でも説明しましたが、学期に関しては、これまでの3学期制が定着していることや季節感、長期休業という区切りから保護者も含めて、3学期制のほうが児童の生活リズムに合っているという考えが強くあります。また、前・後期も、10月の3連休をはさんでのことで区切りがはっきりしないなど、2学期制はなじまないという意見が根強くあります。

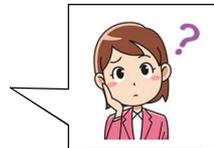
初めて2学期制を聞く人にとっては、「何か大変な変化が起こるのでは」というイメージがあるようですが、それほど大きな変化が起こるわけではありません。

3学期制から2学期制になって、子どもたちに起こる変化は、これまで夏休み前、冬休み前にもらっていた通知表が前期の終わり（10月）にもらうようになります。そのことについては、初めは慣れないかもしれませんが、子どもたちが困ったり、とまどったりすることはありません。授業を受けることや学校生活において、大きな変化はほとんどありません。

②通知表について

通知表を渡す回数が2回になります。保護者の方の多くは、1学期の学習課題を夏休み中に取り組みせたいとの考えから、1学期の成績を知りたいと思っています。2学期制では、これまでの1学期の通知表はありません。ですから、その思いに対して、夏休みの最初に個別面談をもつことで対応したいと考えています。早い段階で個別面談をもつことで、児童の課題を伝える機会をもつことができるメリットととらえることもできます（12月の個別面談はありません）。

Q6 『子どもたちにとっていいことなのでしょうか?』



- ① 2学期制はなじみがありません。初めは慣れないかもしれませんが、子どもたちが困ったり、とまどったりすることはありません。校長も匝瑳市の小学校で2学期制への移行を経験しましたが、子どもたちは柔軟に対応していました。
- ② 通知表が2回に減りますが、学期のスペンが長いので、学習にじっくり取り組みます。
- ③ 長期休業はこれまで通りあります。授業時間の確保のため、土曜日課の増加や長期休業日を減らして授業日にかえることはありません。
- ④ 授業や活動に取り組む時間が増えます。取組の充実につながり、基礎的・基本的な技能の習得の時間の確保と主体的・対話的で深い学びを目指す授業が実施できます。
- ⑤ 自己肯定感や活力を育む「心の教育」の充実を目指す体験活動や児童会活動の時間の確保と実施ができます。
- ⑥ 長期休業前にじっくりと授業ができ、学習内容の定着や課題への取組の時間も生まれます。

No.11・No.12・No.13において、2学期制への移行について説明をさせていただきました。

2学期制への移行は、子どもたちとゆとりをもって学習と生活を送るための工夫として有効であると考えたからです。これは、子どもたちの成長を願ってのことでもあります。